

兵庫県赤穂市

## 赤穂牡蠣

あこうがき

DATA

問 赤穂市建設経済部産業観光課観光係

☎ 0791-43-6839

🌐 <http://www.city.ako.lg.jp/shise/soshiki/kanko/>

### 身が大きく甘み強い

赤穂市が面する坂越湾では、山からのミネラルと栄養分、良質なプランクトンを含んだ千種川の水が流れ込むため、カキの養殖が盛んです。旬の時期には美味しいカキが食べられると多くの人が訪れています。この『赤穂牡蠣』は、身が大きく、甘みが強く、「えぐみ」が少なく、さらに熟を加えても縮みにくいというの大きな特徴です。

旬となる11月下旬～2月下旬にかけては、市内の様々なジャンルの飲食店で、料理人が作る自慢のカキ料理を楽しむことができます。市内にある「しおさい市場」は、夏の時期には漁業体験や魚のつかみ取り、冬の時期にはカキ剥き体験や食べ放題などが楽しめます。

『赤穂牡蠣』



## 地域振興の「人材」とは

Column

私どもは、「電気ふるさと」の取材で、多くの事例を紹介しています。いつも感じているのは、「まちおこし」や「まちづくり」は即ち「人おこし」であり、「人づくり」なのだということです。

どの時代であっても変わらないのは、特産品開発でも観光振興でも、地域に「人材」がいるかです。かつて、地域振興の人材として「よそ者・バカ者・若者」が挙げられていましたが、最近では、内外を問わず、老若男女を問わず、誰もが「地域プロデューサー」として活躍する時代になってきました。

たまたま、地域振興における「人材」について有識者と議論する機会がありましたので、少し紹介したいと思います。そのなかで、どんな業界にも言えることなのでしょうが、「人材とは、聞く耳を持つことができる人、行動力のある人、情熱がある人、責任能力がある人、自主自立の人」などが挙げられました。

そして、「貫き通すことできる人」と「危機感を持っている人」が加わり、結局は、こうした人々を見つける、あるいは育てることができるかどうか、地域振興の行方が左右されるということでした。「若く元気で学歴があって人柄もよい」ということよりも、こうした人々が「真の人材」であるという結論でした。

「地域には人材がない」と嘆くまえに、「周囲を見渡してみれば、こうした人々は必ずいるものだ」と、ある有識者

は言います。そうした人々がいれば、「まちおこし」や「まちづくり」は、ほぼ完成したようなものだ、とも言っています。

これに、多くの事例を見てきた者として、成功した事例を推進した人々に共通するのは、「郷土」に対する強い愛着がある、ということをつけ加えておきたいと思います。

また、最近話題になっている「地域おこし協力隊」も、各地で活躍している事例を見ると、注目に値します。

自治体の中には、この「地域おこし協力隊」の募集にあたり、隊員のミッションを明らかにしているところと、していないところがあります。

地域の課題を明確にして、それに対して「特産品の開発・販売・PR」、「農林水産業の従事」、「住民の生活支援」など具体的なミッションを与えているところは、それなりの成果を上げています。

ある自治体では、応募してきた「地域おこし協力隊」の条件に、「ドラッガーが好き」という項目を入れて、特産品の開発を年間5本以上することなどを義務付けているところもあります。

そうした彼らの物心両面にわたる面倒をみるのは、自治体職員になりますが、成果を上げていくなると、大変な作業になるようです。しかし、「地域おこし協力隊」を卒業して、何らかの形で「地域人材」として定住・定着するとなれば、これほど、良いことはないと思直に思うのです。